会　　議　　録

会議の名称	令和８年度　第１回　白岡市総合教育会議	
開催日	令和８年９月２９日（火）	
開催時間	午後１時３０分から３時４５分まで	
開催場所	白岡市役所　仮設本庁舎　多目的室１・２	
出席者 （出席構成員）の 職・氏名等	白岡市長　藤井　栄一郎 白岡市教育長　横松　伸二 白岡市教育長職務代理者　和田　玲子 白岡市教育委員　小野目　如快 白岡市教育委員　福永　肇 白岡市教育委員　諸岡　瑞穂　（計：６人）	
欠席者 （欠席構成員）の 職・氏名等	なし	
事務局職員の 職・氏名	【市長部局】 副市長　椎木隆夫 経営企画部長　大谷昌司 企画政策課長　小林知史 企画政策課　課長補佐　金子寛之 企画政策課　主査　吉野大輔 企画政策課　主任専門員　阿部千鶴子 （計：６人）	【教育委員会】 教育部長　長谷川亘 教育部参事兼教育指導課長　増村歩 教育総務課長　高澤憲司 魅力ある学校づくり推進室長　齋藤健 教育総務課主幹　神田晶子 魅力ある学校づくり推進室主査 相子純一 教育総務課主任　松本崇希 （計：７人）
その他会議 出席者	なし	
会議次第	１　開　会 ２　挨　拶 ３　議　事 ⑴　次期教育大綱策定に向けた考え方について ⑵　第４期白岡市教育振興基本計画の策定状況について ⑶　白岡市立学校適正規模・適正配置等計画の策定状況について ⑷　白岡市立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画の報告について	

	４　その他 ５　閉　会
配布資料	会議次第 次期教育大綱策定に向けた考え方について 第４期白岡市教育振興基本計画（第１章、第３章）素案 白岡市立学校適正規模・適正配置等計画の策定状況について 白岡市立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画

議　　事　　の　　経　　過	
発　言　者	議　　題　・　発言内容　・　決定事項
	１　開会
大谷部長 （経営企画部）	大谷経営企画部長の進行により会議が開会した。
	２　挨拶
藤井市長	藤井市長から挨拶が行われた。
大谷部長 （経営企画部）	議事の進行について、椎木副市長とすることについて意見を伺った。 （椎木副市長が進行役となることに意見等なし。） 以下、椎木副市長による進行で行った。
	３　議事 **⑴　次期教育大綱策定に向けた考え方について**
椎木副市長	議事「次期教育大綱策定に向けた考え方について」でございます。企画政策課から説明をお願いします。
小林課長 （企画政策課）	企画政策課から資料に基づき説明が行われた。
椎木副市長	文化・芸術・スポーツに関する業務については市長部局に移ったということで、文化・芸術・スポーツに関することは、市の総合振興計画に位置づけていますので、その部分を教育大綱とし、それ以外については、従前どおり教育振興基本計画をもって教育の大綱にするということです。
	⑵　第４期白岡市教育振興基本計画の策定状況について 次に、「第４期白岡市教育振興基本計画の策定状況について」でございます。教育総務課から説明をお願いします。
髙澤課長 （教育総務課）	教育総務課から資料に基づき説明が行われた。
椎木副市長	説明が終わりました。この内容について、教育委員の皆様からそれぞれご意見を伺いたいと思います。

Ａ委員	６ページから７ページにかけて３つの施策が色塗りで分かれています。基本理念の学び楽しむまちづくり「次代を担う人と豊かな文化を育む」から「豊かな学び」に変わりました。人間というのは絶えず「学ぶ」という姿勢が大切かなと思っています。「学ぶ」というところがだんだん衰えてくるといろいろ認知や体調が不良になるというところに関係してくるのかなと。生まれてから亡くなるまで「学ぶ」という姿勢を絶えず続けて白岡市で生活していただくということで、この変更点は非常に良かったと思います。市長部局に移った文化・芸術・スポーツがこの計画の中に入ってこないので、致し方ないですが、それも含めて総合的に進めていっていただければと思います。 施策目標１「家庭・地域の教育力の向上」の部分では、特に子育てというところで就学前のこどもたちに対するいろいろな施策が盛られているのですが、教育委員会では、小中学校がメインになっていて幼稚園や保育園の方々の話が少し弱い感じがしますので、積極的に取り組んでいただければよいのかなと思います。 施策目標２「学校教育の充実　⑴これからの時代に求められる資質・能力の育成」の部分では、「ＧＩＧＡスクール」について具体的には出てないのですが、英語力が他市町村と比べてどうなのかと思っています。ｉＰａｄでネイティブな発音を確認するなど、各学校で共通して有効に使われるといいと感じます。「⑷家庭・地域・学校が一体となった子どもの育成」では、放課後子ども教室が菁莪小学校から始まり、今、各学校に広がってうまく回っていて、携わっている地域の方々がいきいきとしていると感じます。小中学校を出ますと、その後は白岡市と直接関わる「学び」ということから、若干遠ざかっているような気がするのですが、施策目標３「社会教育の充実」では、図書館機能の充実が掲げられています。私は、近隣の図書館も訪ねて行っているのですが、その中でも白岡市の図書館はかなり良いと思います。さらに市民が学ぶというところで活用されればありがたいことかなと思います。
椎木副市長	ありがとうございました。広範囲に、ご意見をいただきました。
Ｂ委員	子どもだけでなく、生涯にわたって「学ぶ」という白岡市の目指す教育は重要だと思いました。 なかなか大人になると「学ぶ」ということ、新しいものを吸収することは難しくなってくるので、講座などがあれば自分で学ぼうという気になってくるので重要だと思いました。 子どもたちの教育は、今、やっていることを考えてしまうのですが、先ほどご意見のありました英語を磨くのもそうですし、それ以外のことでも将来を見据えてどういう学習をしたら良いのかということを目指して、今後「学び」ができると良いかなと考えました。

Ｃ委員	国や県の基本計画を踏まえて、整合を図りながら作られる白岡市の教育振興基本計画は、私はこれで良いと思いました。「学び楽しむまちづくり～次代を担う人と豊かな学びを育む～」を基本理念に、生涯にわたり自ら学び、考え、多様な人と協働しながら未来を切り拓き、持続可能な社会を担う人を育むというのは大切で、まさにそのとおりだと思います。 ６ページ施策目標１に「②放課後や週末などの子どもたちの居場所づくりの推進」とあります。登下校をする子どもたちは見かけますが、公園等などで小学校・中学校の生徒を見かけないです。学童クラブや放課後子ども教室、塾などに行っているのかもしれませんが、集まっていない、昔は集まっていたような気がします。放課後や週末などの子どもたちの居場所づくりは大切なことで、これを進めていかなければいけないのかなと思います。 次に、施策目標２「⑶教職員の資質・能力の向上」ですが、学校は週休２日制です。１クラスも３５人となって、目が行き届きますし、いろいろできるのではないか、クラブ活動もアウトソーシング化ですし、教員の働き方改革も浸透してきていると思います。教員の方々は、時間に余裕があるのではないでしょうか。教職員の資質・能力の向上に、もう少し力を入れてもらえば良いのかなと思います。例えば、英検、臨床心理士などの資格を取得する、大学院や通信制大学に行く等自分の資質向上の風土を作っていった方が良いのかと思いました。 ⑹の「④経済的支援」ですが、日本では、子どもの相対的貧困が１４％といわれており、ひとり親家庭では、２人に１人と言われています。白岡市の場合は約５％の児童生徒が就学支援を受けています。３５人クラスであれば１．７人くらいですが、潜在的にもっといるのではないかと思います。就学支援を受けるには、教育委員会に自分が申請する制度となっています。申請に来ない家庭があるのではないでしょうか。社会の責任だと思いますし、具体的には市役所が気を配って対応する必要があると思います。
椎木副市長	ありがとうございました。子どもたちや教職員を取り巻く環境の変化に応じて、課題も新しくなっていくということであると思います。
和田職務代理者	基本的な教育、理念的な考え方をどのように白岡市として、皆様に投げかけていけば良いのかということですが、中心の軸をどうするかといったときに 時代は変わっても、常に教育の根本的なものは変わりませんが、社会が変わっています。少子化、人口減少、高齢化、デジタル化、グローバル化、生活様式の多様化、と変わっていくので、今後は、変わらないもの、それに合わせていかないと、どうしても時代の流れに合わない部分がでてくるのじゃないかということですね。生まれてから愛情を一心に受けて、愛されていることを感じながら育っていき、一人の自立した豊かな社会人として人生を切り開いていくと

	いうのが基本的な教育の理念だと考えています。生まれてから就学するまで、６年くらいあるのですが、その間に本当に必要なことを与えられているだろうか、時代の流れが速すぎて本当に大事なものを見失ってしまっているのではないか、その部分を補っていかなければならないと思います。図書を中心とした教育がすごく良いと考えていまして、白岡市では乳幼児健診でのブックスタート、それも素晴らしいと思うのですが、そこから途切れなく行っていただくようにと考えます。絵本の読み聞かせは親と子が愛情を感じる素晴らしい時間であり、デジタルから情報を得る前の、まだ言葉を覚える前の子どもたちに幸せだという感覚、楽しいという感覚、そして相手の気持ちがどう思うかって言う感覚は絵本を通して親子で語り合いながら学んでいく、見つけていくことが一番だと思います。 　放課後の過ごし方として、学校図書館を利用する、図書館に自分で通えない子どもたちの居場所に図書が充実している環境を整えていく、子どもの成長に合わせて図書を整えていく、教育全体で図書館を中心とした教育目標を作っていくと良いと思います。 　不登校やいじめなど負の部分に対しては精神的にたくましい心をつくっていくのはもちろんありますが、例えば不登校で朝起きられない起立性障害はありますが、ある大学の研究では、始業時間を８時から１０時に変えるクラスを設置したら不登校の子の半数が登校したとのことでした。具体的にそのようなことで不登校が解消されるなら、方策として科学的な見地、臨床的なデータを集めて活用していくと良いのではないかと考えます。
椎木副市長	学びのカギは図書館にあるのではないかというお話と、新たな課題、あるいはだんだん重要度を増していく課題にどう向き合っていくかという２つのお話でした。教育長いかがですか。
横松教育長	基本理念は、学びを通して市民一人一人のウェルビーイングの向上ですが、ウェルビーイングとは、心身の健康と持続的な充足感という意味合いです。 　私としては、「できる」と「できた」と「わかった」この３つを大切にしていきたいと思っています。自分ならできるという自信、できたという満足感、わかったという自分の成長です。子どもだけではなく、幼児から大人までそういった気持ちは大切にしていきたいと感じます。 　いろいろな方法はあるのですが、子どもも大人も日々何かを感じながら、幸せといっても良いのですが、それを感じながら生きていけるような白岡市にしていきたいと思います。
椎木副市長	ありがとうございました。各委員、教育長からのお話がありましたが、市長いかがですか。

藤井市長	様々なご意見をいただきまして、これから取り組んでいかなければならないものと、あるいは今までの取り組みについても反省しながらやっていかなければならないと思いました。「学び」は一生涯という話をよく先輩から聞いていまして、なんでも「学び」は自分の血となり肉となる、そういう環境を子どもたちに作っていくことを大切にして、やらなければならないと改めて思いました。 先ほど、図書中心というご意見がありました。白岡の図書館は非常に良いという話ですね。先般、取材があり全国の図書館という関係で紹介されました。白岡市は、５０平米の小さな図書館から今は年間２０万人が来る図書館になりました。様々な取り組みを行ってきまして、徐々にいろいろ出来てきています。そして図書館そのものは新しく、非常に過ごしやすいです。 火災の影響で半年間、間借りさせていただき、皆さんに大変ご迷惑をおかけしましたけれど、気づきもありました。毎日お見えになる方、学びは老若男女、子どもさん、夕方は小学生、中学生、高校生、日中は大人の方がお見えになっていました。ここを占拠していてはいけないな、早く、通常に戻していかなければいけないなと思いました。 基本理念にも書かれているのですが、変化が厳しく将来が見通せない、こういう社会の中で、やはり自ら考えて、自ら判断して皆さんと協働しながら社会を生きていくということを改めて思っているところです。 基本理念にある、「家庭・地域の教育力の向上」、「学校教育の充実」、そして「社会教育の充実」の３本柱ありますけど、これについても、きめ細かい施策を講じていかなければならないと思いました。 教育長も話されたとおり自己肯定感を醸成するということは、言葉だけではなく、これが教育の基本だと思っています。そして、それを実行できる教育を是非していただきたいと思っています。
椎木副市長	ありがとうございました。教育長いかがですか。
横松教育長	自己肯定感、今を大切にして努力していけば良いという気持ちです。 それからもう１つ、自分はできるんだという、自己効力感も必要かなと思います。そういう気持ちを市長としっかり育てていきたいと思います。
椎木副市長	ありがとうございました。生涯、「学び」であるとのお話でした。これを支える基本計画をしっかり策定するということで、よろしくお願いしたいと思います。 **⑶　白岡市立学校適正規模・適正配置等計画の策定状況について** 次に、「白岡市立学校適正規模・適正配置等計画の策定状況について」でご

	ざいます。魅力ある学校づくり推進室から説明をお願いします。
齋藤室長 （魅力ある学校づくり推進室）	資料に基づき説明が行われた。
椎木副市長	説明が終わりました。小・中学校は市が責任を持って位置づけなければならない大事な分野ですし、市民にとっても市政における最大の関心ではないかと思います。これからの小・中学校をどうしていくのかということを２年という期間を設けて議論が進められているところですが、いよいよ大詰めというところまできました。 教育委員の皆様はどのようにお考えでしょうか。
Ｃ委員	白岡市の将来、児童生徒の減少、校舎の老朽化、最も新しい校舎で白岡東小学校が３１年経っています。最適規模・最適配置が小学校３校、中学校３校という方向で、私自身も最適かなと思いますし、市民の方も納得されると思いますが、総論賛成、各論反対があります。どの学校をどの学校に統合するのか、学校の名前をどうするのか、という大きな問題があるので、そこに対しては、教育委員会と市民の皆さんとが議論をし、意見合意、合意形成を図っていくことが必要です。 私が一番懸念しているのは、資金調達です。校舎建て替えや多額の設備投資に資金がかかります。プランはできたが資金がない、着工できませんでは、元も子もないです。今、小学校１校作るのに、１００億円から１５０億円かかります。市の年間予算は２１５億円、市が借金している金額は１１０億円、借金と同じくらいかかります。教育委員会の予算はたった２１億円です。資金調達はどのように行っていくのかなと思います。公共施設、高齢者施設との複合施設というのが、新しい考え方になっているかもしれませんが、これは、教育委員会だけでは対処できないと、市長部局とも協議、協力して修正しながらやっていかないと具体的になっていかないのかなと危惧しているところです。 資金の裏付けが必要です。
Ｂ委員	学校の数だけが問題ではなく、子どもたちのより良い教育環境を整えることが一番重要だと思います。今回のパターン２、小学校３校・中学校３校というのは、最適な案だと思います。白岡市の特色として図書を生かした教育は、大変意義があると思います。こもれびの森の充実した施設を活用して、地域と学校が交流できるということが一番良いかなと思いました。また、図書以外でも特別支援教育や急増している不登校の児童生徒への対応を今よりも一歩進めたものが今後検討できれば、より良い教育環境を作ることができ「誰一人取り

	残さない」という白岡市の目指す教育ができるのではないかと思いました。
Ａ委員	資料の４ページ、いろいろなパターンがありましたが、小学校３校・中学校３校が望ましいかなと思っていましたので、そうまとめていただいてよかったと思います。 資料の７ページ、３つの柱と図書を生かした教育とありますが、地域とその拠点との関わり合いというのは、１つは図書館があるのかなと思いますけれど、もっと大きく、学校施設もありますので、地域との関わり合いについて、防犯とかの関係もあるとは思いますが、全国の活用例を参考に進めていただければ良いかと思います。
椎木副市長	地域との関わり合い、図書を生かした教育についてですが、現時点で方向性などはありますか。
長谷川部長 （教育部）	図書を生かした教育についてですが、できることは何か、丁寧に考えています。具体的なものについては、今後お知らせしていきます。
和田職務代理者	私はこの審議会のメンバーではないのですが、傍聴を何回かしまして、校長先生方や地元の方々は本当に教育に関心が高く、いろいろな意見を前向きに活発におっしゃっていました。市民を巻き込んでいろいろな希望を吸いあげながら、１つの形になっていく最初の段階をみさせていただきました。 市民の希望や期待を一新に背負っていく形になっていくのではないかと感じます。審議の過程を「今、こういう段階です。こんな感じになっています。」と期待感を持たせるような感じで広報に盛り込んでいくと良いですし、新たなわくわく感を市民に伝えていくと、いろいろな人のアイディアが集まっていくような刺激を与えてもらえるかなと思っています。 人づくり、街づくりですが、この学校があるから、こういう市民が集まってくるし、こういう市民が集まっているから、こういう学校になる、人を呼び込んでいく、新しいものを目指したいという人を呼び込んでいく、という大きな市政の柱になっていくのではないかと感じがします。 ただ、現実的には、お金との兼ね合いがありますので。 以前に教育委員会でお話のあったつくば市の取組は、感動しました。いろいろなタイプの学校を作っていったのですが、ある課題をもとに形をつくり、また新しい課題が見えて作りっていうようになった、そういう先輩の市がありますので、そこの良い面、悪い面を吸収していくことができると素晴らしいと思います。 つくば市が教育先進地なので、つくば市に引っ越したという家庭を知っています。教育が住む街を決めるということが大いにあると思います。将来ビジョ

	ンに合わせた街づくりが出来ると良いです。 図書を生かした教育についてですが、必要なのは、学校に司書がいることです。図書館が非常に刺激的になります。「あの図書はどう？」と勧めてくれるような先生がいるということで、本好きな子どもが増えますので、司書の配置を検討していただきたいと思います。
椎木副市長	ありがとうございました。このテーマは、これまで教育委員会で議論を進めてきた訳ですが、大きすぎて、教育委員会だけではカバーしきれない要素が非常に多いところです。議論の途中ですが、この段階で、教育委員の方から市長はどう考えますかと市長への質問があればいかがですか。
藤井市長	私の方から、まず先に申し上げます。いろいろご意見をいただきましたが、財政面がしっかりしないと取り組めないです。２０年の間に３小学校、３中学校をやっていこうということです。市債が１１０数億円というお話が先ほどありましたが、少ない借金であると考えています。白岡市は公共施設が少ないのですが、ご指摘いただいたように財政面は非常に厳しいところです。ご意見がありましたように、計画ができても実行しないということにならないように、今、議論の真最中ですが、一つ一つ丁寧に乗り越えて、何としてもこれを皆さんのご意見をいただいて実行していきたいです。 学校１校作るのに、１００億円から１５０億円かかると聞いておりますのでそこに公共施設、どういうものが作れるかということも含めて、総トータル、市全体の仕組みを考えていかなければならない時期にきていますし、まさに白岡市が動き出しています。今、第６次総合振興計画の後期計画を作っているのですが、少なくてもこれに合わせて、白岡市が変わらなければならない、まさに変わるチャンスです。市民の皆さんに分かりやすいように説明をしていきます。今回のテーマの学校適正規模・適正配置等計画で、小学校３校・中学校３校で目指すのでよいのではと私も思っています。将来、２０年後３０年後は、また別の問題が出てくると思いますが、今、現在で考えられるのが、これが一番良いのかなと思います。 大山小学校の統廃合ですが、２年前にやらせていただきました。生徒数が４８名くらいの学校を今まで放置してきた我々の責任、子どもたちのためにはなっていない、子どもたちのことを考えたらもっと前にやらなければならなかったと感じたものですから、性急だと言われればそうかもしれませんし、反対のご意見もいただきました。ですから、これからやっていくには、保護者の方、地域の皆様に納得感を得られるような丁寧な説明が必要であると思っています。
Ｃ委員	私は、市の財政からみると市債は大きな額ではないと思います。

	白岡東小学校建設が３１年前、それ以降は行ってこなかったですし、西小学校の増築をやっていますが、久々の施設、設備投資です。市全体の公共施設を含め、市長部局と調整、協議していき、市を挙げての推進体制、協力体制、意識を持って行ってもらいたいと思います。
椎木副市長	公共施設再編計画や財政面のご意見がありました。それについてはどうですか。
大谷部長 （経営企画部）	市民の方からは、都市計画道路等の整備など大きな事業をやっていて、今後、学校再編はどうなるのかとお話をいただいています。持続可能な行財政運営を推進していかなければならないという面もありますので、教育部と協議して進めていかなければならないと思っています。
和田職務代理者	財政面での質問ですが、全体がいくらで、何パーセントでというお話は筋が通っていて分かりやすいのですが、さらに付け加えて、このまま学校を建て替えなかった場合やまたは新しく学校の再編をしなかった場合にどのようなお金がかかるのか、あるいは建て替えた場合や補修をした場合などの比較があると、より合理的に納得しやすいのではないかと思います。そういう話が市民に伝われば説得力が増すと思いますが、今、何かありますか。
大谷部長 （経営企画部）	学校だけでなく公共施設の再編の計画があります。公共施設も老朽化してきていますので、学校再編と一緒に進めていく必要があると思っています。
長谷川部長 （教育部）	今回の計画の中で、コストについても再編をした場合としなかった場合を示して行きます。
椎木副市長	議論を深めるためには、いろいろな判断材料があったほうが良いということですね。それをしっかりお願いします。
Ｃ委員	小中一貫教育は国の大きな方針だと思います。この学校適正規模・適正配置等計画では、小学校３校、中学校３校とするほか、小中一貫教育の推進があります。私たちは６．３．３年制で育って来ていますし、小中一貫教育への市民への説明、理解、合意も必要ではないかと思います。中高一貫教育は理解できますが、小中一貫教育について、メリット、デメリットを出していくことが必要かなと思いました。
椎木副市長	ありがとうございました。今日の資料１４ページからの参考資料が、小中一貫教育の情報になっています。この部分の情報も市民に出していかなければな

	らないというご意見でした。 **⑷　白岡市立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画の報告について** 次に、「白岡市立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画の報告について」でございます。教育指導課から説明をお願いします。
増村参事 （教育指導課）	資料に基づき説明が行われた。
椎木副市長	ありがとうございました。教職員の働き方改革についてです。発言はありませんか。 今年の３月に作成した計画についての報告ということで、もう出来上がって、それでこう取り組んでいて、白岡市は進んでいますという話はありますか。
増村参事 （教育指導課）	中学校においては、部活動の地域移行が完全移行になっていまして、県内でも進んでいますので、何よりも、中学校教員の働き方改革がそれによって進んだのかなと思っています。
椎木副市長	学校の中の空気というか、変化などは出てきていますか。
増村参事 （教育指導課）	希望しなければ、土日の部活動の指導がありませんので、余白の時間によって自分自身のライフスタイルを変えることができますし、そういった時間で自分の教材研究に充てられるようになったので、子どもたちに向き合う時間の確保ができていると思います。 部活動の地域移行が働き方改革に繋がっていますが、それ以外にも、余白の時間をうまく生み出せるような改革をして子どもたちに向き合う時間の確保をしていければよいかと思います。
椎木副市長	本日は、活発な意見交換をありがとうございました。以上で、本日の議事事項が全て終了いたしました。円滑な議事進行にご協力を賜りまして、誠にありがとうございました。
大谷部長 （経営企画部）	椎木副市長、ありがとうございました。 **４　その他** 続きまして、次第４の「その他」についてでございます。

	事務連絡がございますので、事務局から説明をお願いします。
小林課長 （企画政策課）	それでは、事務局から、今後の総合教育会議の開催について、ご連絡を申し上げます。 次回の会議の開催については、本日、ご意見をいただきました「第４期白岡市教育振興基本計画及び第６次白岡市総合振興計画後期基本計画の一部」を「教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策の大綱」とさせていただくことについての議事を予定してございます。 会議は、令和９年２月１２日金曜日、教育委員会定例会終了後でございます。詳細が決まり次第、改めて、ご案内を申し上げますので、よろしくお願いしたいと存じます。 なお、児童・生徒の安全を確保する必要が生じたときなど、緊急を要する事案が発生した場合には、随時、この総合教育会議を開催し、対応を図ってまいりたいと存じますので、あらかじめご承知おきくださるようお願いいたします。
大谷部長 （経営企画部）	**５　閉会** 大谷経営企画部長の閉会宣言により終了した。